「避難生活支援リーダー／サポーター」研修

避難所運営にかかるNPO等との連携事例

内閣府政策統括官（防災担当）付
参事官（普及啓発・連携担当）付

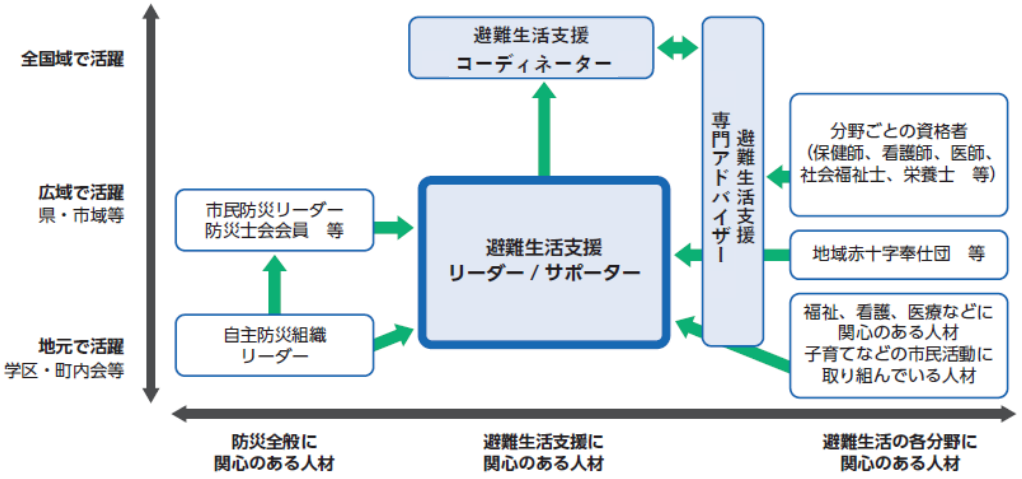
「避難生活支援リーダー／サポーター」研修について（令和４年度～）

（「避難生活支援・防災人材育成エコシステム」の構築）

○ 内閣府では、災害の激甚化・頻発化等により避難生活が長期化する中、地域のボランティア人材に、**避難生活環境改善のための知識・ノウハウを身につけてもらうためのモデル研修を令和４年度から開始**。

○ こうした取組を通じて地域のボランティア人材の発掘・育成を図り、発災時には行政職員や支援者等と連携してもらい、**良好な避難生活環境の確保を図ることにより、「災害関連死・ゼロ」の実現**を目指す。

避難生活支援リーダー／サポーターとは



○ 「避難生活支援リーダー／サポーター」とは、避難所運営の基本的スキルを習得し、自治体や支援者等とともに、避難所の生活環境向上に率先して取り組むことができる人材

○ 当該人材を各地域で発掘・育成するために、内閣府主催の「避難生活支援リーダー／サポーター研修」を全国で開催

⇒ これ以外にも、運営に関わる担い手と連携した環境改善に率先して取り組む人材「避難生活支援コーディネーター（仮称）」や、医療・保健・福祉等の専門的な知見を活かした支援・助言をするとともに、リーダー/サポーター、コーディネーターと連携できる人材である「避難生活支援専門アドバイザー（仮称）」を育成するための仕組み・研修プログラムも、引き続き、関係者や各分野のニーズ等も踏まえて再検討

避難生活支援リーダー／サポーター研修（令和６年度）

研修プラグラム	・オンデマンド講座（事前視聴） ・基礎講義、グループ討議、演習　など、研修期間２日間
研修実施地区	・八戸市（青森）・館林市（群馬）・箕輪町（長野） ・倉敷市（岡山）・嘉麻市（福岡）　計５地区

研修テキスト

グループ討議

避難所の環境改善演習

令和６年度スケジュール

R６年度前半

○ 研修カリキュラム・テキスト検討
○ 研修実施自治体等との調整

R６年度後半

○ 研修の実施（計５地区）
○ 研修アンケート結果等の分析
○ 次年度に向けた改善検討

○ 来年度の研修について、自治体・関係団体等での開催を促すための検討（内閣府の役割・研修主催自治体等に対する支援の検討）
○ アドバイザー研修等の位置付け・枠組みの検討

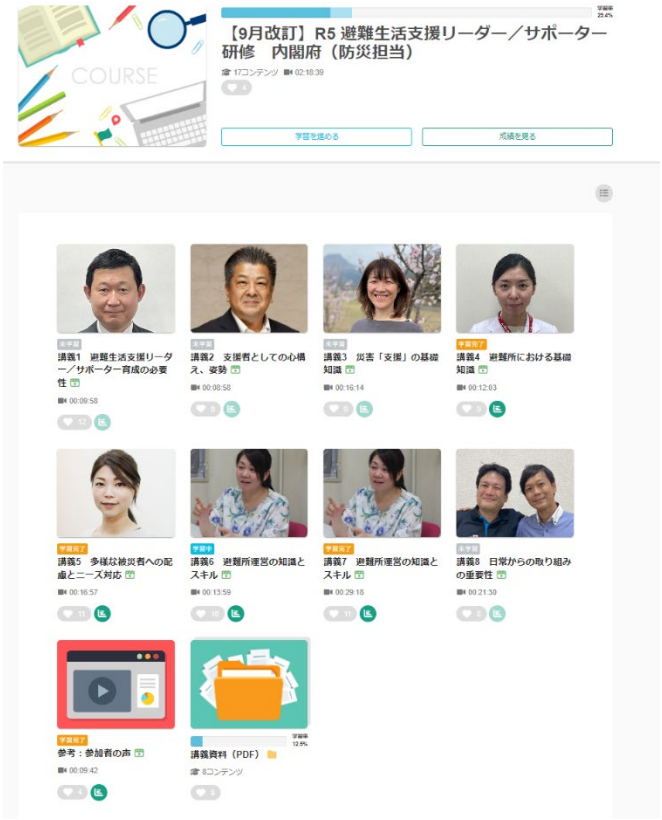
○ 研修修了者の認定、データベース、マッチングの仕組み検討・構築

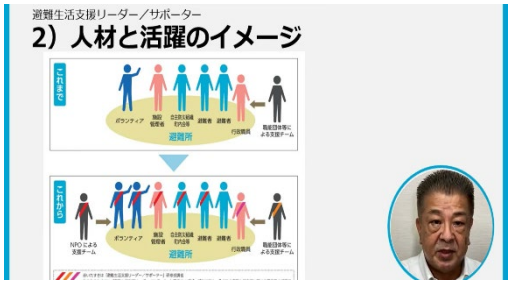
避難生活支援リーダー／サポーター研修の様子（１）（令和５年度）

オンデマンド講座

	項目	講師
1	人材育成の必要性（10分）	村上威夫 氏（内閣府（防災担当）参事官）
2	支援者としての心構え、姿勢（９分）	栗田暢之 氏（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク代表理事）
3	災害「支援」の基礎知識（16分）	阪本真由美 氏（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授）
4	避難所における基礎知識（12分）	辛嶋友香里 氏（ピースボート災害支援センター） 関真由美 氏（日本赤十字社医療センター）
5	被災者への配慮とニーズ対応（16分）	辛嶋友香里 氏（ピースボート災害支援センター）
6	避難所運営の知識とスキル①（14分）	浦野愛 氏（レスキューストックヤード）
7	避難所運営の知識とスキル②（15分）	浦野愛 氏（レスキューストックヤード） 辛嶋友香里 氏（ピースボート災害支援センター）
8	日常からの取り組みの重要性（21分）	三谷潤二郎 氏（倉敷市人権推進室） 松岡武司 氏（倉敷市社会福祉協議会）
参考	参加者の声（10分）	中村文哉 氏（長野県危機管理部危機管理防災課防災係） 清水大樹 氏（上田市危機管理防災課危機管理防災担当） 清野百花 氏（上田市国保年金課） 竹内秀行 氏（上田市民生委員）

※LMS（eラーニングシステム）、DVD視聴、上映会視聴いずれかの方法で演習1日目までに受講





避難生活支援リーダー／サポーター研修の様子（２）　（令和５年度）

避難所運営研修１日目

項目	内容
（１）開会等 10：00～10：30	・開会挨拶／オリエンテーション
（２）講義・演習① 10：30～12：00	○講義：多様な被災者の理解とその配慮 ・被災地・被災者への理解 ・災害時における要配慮者の立場例 ○演習：被災者の心情や状況の理解 ・被災者と支援者のやり取りを再現した動画を紹介し、紹介された被災者の心情、困りごとを話し合う ・グループで検討した内容を発表・共有
12：00～13：00	昼食・休憩
（４）講義・演習⑫ 13：00～15：40	○講義：避難所の課題と生活環境の整備 ・避難所に必要なスペースとその機能 ・一日の流れ、活動内容、運営する上での留意点 ・運営に関わる担い手の理解 ○演習：避難所の課題と生活環境の整備 ・各スペースの巡回を行い、それぞれ「改善点」を話し合い、具体的な改善作業を行う ・各スペースの改善の発表と解説
（５）クロージング 15：40～16：00	・委員コメント／ふりかえり／アンケート記入 ・閉会挨拶

避難所運営研修２日目

項目	内容
（１）講義・演習① 10：00～12：00	○講義：対人コミュニケーション ・避難所におけるコミュニケーションの目的、基本 ○演習：対人コミュニケーション ・「被災者役」「リーダー／サポーター役」「観察者役」の３つの役となり、コミュニケーションの仕方を体験する ・グループでの演習結果を全体で発表・共有
12：00～13：00	昼食・休憩
（２）基礎講義② 13：00～15：40	○講義：運営の担い手との連携・協働の必要性 ・課題・困りごとを解決するのためのポイント ・被災者との情報共有、参加できる場づくり ○演習：運営の担い手との連携・協働の必要性 ・2日目午前中に検討した5つのケースについて、「被災者と一緒に取り組めること」「被災者以外の運営の担い手と一緒に取組むこと」を話し合う ・グループで検討した内容を全体で発表・共有、解説
（５）クロージング 15：40～16：00	・講師からのコメント ・名簿登録／修了証授与 ・ふりかえり／アンケート記入 ・閉会挨拶

避難生活支援リーダー／サポーター研修（令和６年度：５地区）

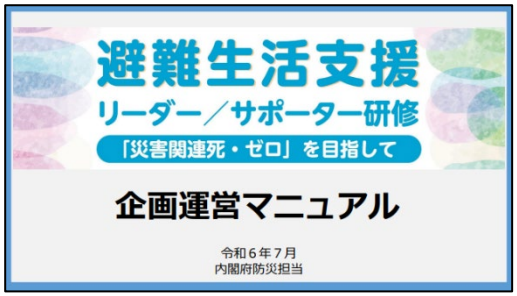
○　令和６年度は、各県に公募を行った上で、以下５県（市町村）を選定

【注】「※」記載のある県は、昨年度（令和5年度）研修中止自治体

都道府県名	福岡県 ※	青森県	岡山県	長野県 ※	群馬県 ※
実施市町村	嘉麻市	八戸市	倉敷市	箕輪町	館林市
実施日（予定）	11/16(土)、17(日)	12/14(土)、15(日)	1/18(土)、19(日)	2/1(土)、2(日)	2/8(土)、9(日)
市町村の人口規模	3.3万人	22万人	3.6万人	2.5万人	7.4万人
参加呼びかけ予定の団体・組織	防災士会、NPO、社協、ボラセン　等	自主防災組織、消防団、女性防災クラブ、民生委員、児童委員、高校生、大学生、専門学生　等	日本赤十字社岡山県支部、県及び実施市町村社会福祉協議会、日本防災士会岡山県支部、災害支援ネットワークおかやま、岡山県立大学、くらしき市防災の会、倉敷市災害ボランティアコーディネーター連絡会、市内自主防災組織、要配慮者施設運営法人等	自主防災組織（町内15行政区）、防災士連絡会、日赤奉仕団、町社会福祉協議会、町防災会議/避難所環境向上専門委員会、町消防団	群馬県社会福祉協議会、館林市社会福祉協議会、日本防災士会群馬県支部、ぐんま地域防災アドバイザー（館林市在住者）、日本赤十字社群馬県支部、DMAT、DWAT、DPAT等の災害時支援チーム（所属医療機関）、館林市内の自主防災組織、館林市防災士連絡会　等

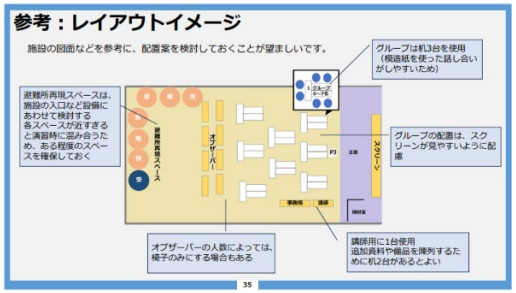
避難生活支援リーダー／サポーター研修企画運営マニュアルの提供について

- 内閣府による避難生活支援リーダー／サポーター研修の実施のほか、都道府県・市町村による同研修の開催を支援
- 自治体職員が研修を企画運営できるよう、具体的な準備・運営手順やポイントなどを記載したマニュアルの提供、自治体担当者向け説明会を実施予定（R6年度中）。



企画運営マニュアルの構成

1. 研修趣旨を理解する ▶ 想定している人材育成像、プログラムの特徴などを記載
2. 研修を企画する ▶ 研修の位置づけ、企画内容を記載
3. 研修を準備する ▶ 受講者募集、会場手配、必要資機材の準備を記載
4. 研修を運営する ▶ 当日の設営、進行支援等の役割を記載
5. 研修の事後処理 ▶ 実施後に行うべき対応を記載



受付に必要な資機材リスト

資目	数量	備考	資目	数量	備考
受付票	1	実施地域のものを使用	クリップボード	1	
避難者名簿（紙ファイル）	1	「避難者名簿」とファイル表に記載	クリアファイル	3	
土砂・ほこり	1	観葉植物用など細かい物	卓上カレンダー	1	
時計	1		養生テープ	1	
スリッパ	3	施設のものがあれば追加	老眼鏡	1	
ビニール傘	2		表示（受付・土足禁止）	1	A4サイズ、机表に貼る
折りたたみ傘	2		机	1	
靴（土足）	10足程度	スタッフの土足を散乱させる	椅子	1	
筆記用具一式	1		ブルーシート	1	最低1.8m×1.8m

53

避難所運営にかかるNPO等との連携事例（食事支援）

【穴水町】NPO等と連携したセントラルキッチン方式による炊き出しの実施

○ 穴水町では、避難生活が長期化する中で、避難者に栄養バランスの取れた食事を提供するため、**町有施設の厨房を活用した仮設セントラルキッチンを整備**し、ここを拠点として炊き出しを実施。（2月27日～）
○ 持続的な運営形態を確保するため、**地元料理人を雇用**するとともに、資機材・食材費・人件費等には**災害救助費を活用**。
○ 準備にあたっては、すでに穴水町で炊き出しを行っていた**県外のNPOやボランティア料理人が町役場に全面的に協力**。

<取組のポイント>

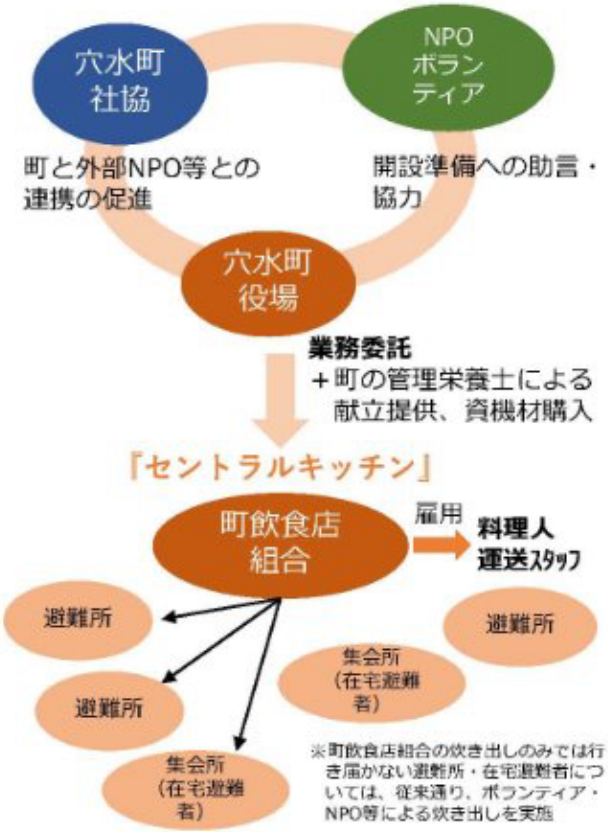
・セントラルキッチンは、市内の「林業センター」の厨房を活用。冷蔵庫、鍋・釜等の資機材を新たに購入。
・料理人は、被災した町内飲食店の雇用創出も兼ねて、地元飲食店組合の事業者から募集。運送スタッフも雇用。
・献立は、町の管理栄養士が、支援物資（アルファ化米や缶詰）も活用して立案。食材は、地元スーパーから調達。
・町内の避難者（避難所、在宅）全体の配食計画を検討し、小規模避難所や在宅避難者向けにも配食を実施。
・町役場主導の取組だが、NPO（レスキューストックヤード）、県外のボランティア料理人らが全面的に協力。
また、災害救助費の活用について内閣府リエゾンが助言。

<取組状況>（3月6日時点）

・全10人程度の料理人が、5人程度/日のシフト制で従事。
・毎夕150食程度を調理。避難所及び集会所等（在宅避難者向け拠点含む）の約5～10カ所に配達。
・NPOが支援していた避難所からも炊き出し・配送を実施。
・穴水町内での自衛隊の炊き出しは3月3日で終了。

セントラルキッチンでの炊き出しの様子

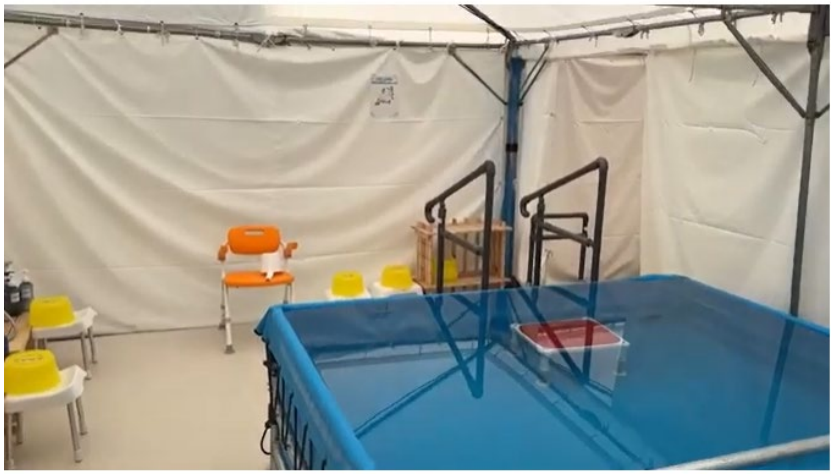
町役場での福祉・炊き出し関係者の打合せ



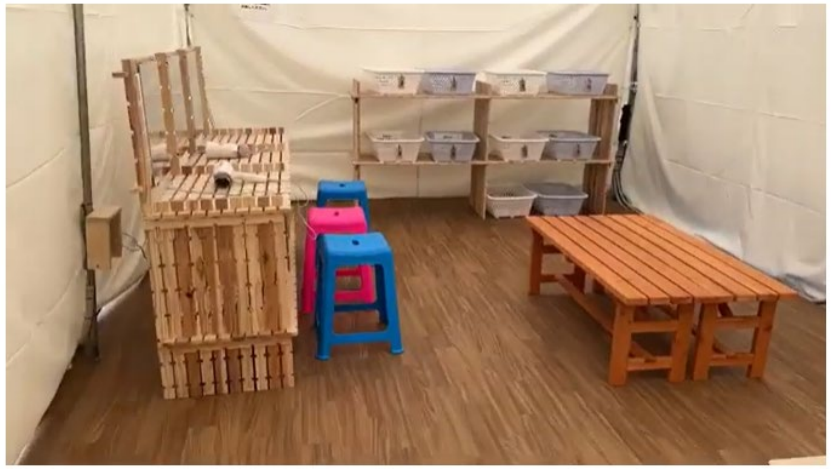
避難所運営にかかるNPO等との連携事例（入浴支援）

○　輪島市では、自衛隊等による入浴支援のほかに、NPOが仮設浴場を設置・運営

※　NPOによる準備費用・運営費用にも災害救助法を活用可能。



出典：NPO法人VネットFacebook



出典：ピースボート災害支援センターHP